

## 第1回 日下川新規放水路施工技術検討部会での主な意見

発言者	意見	対応
原委員	○事前の調査から、大規模な事象はある程度予測がつくが、施工中に生じる突発的な肌落ちや湧水など、細かな事象の予測は困難である。複雑な地質・地盤の不確実性を考慮し、掘削過程で把握される情報を踏まえて安全に留意し施工する必要がある。	地質・地盤推定図を作成し、今後生じる可能性のあるリスクを考慮に入れた施工を行う。(資料4 P13)
岡田委員	○今後掘削を行う区間について、リスクの不確実な点は理解できるが、ある程度の幅を持たせてでも、これまでの施工実績や技術的な観点から、想定されるリスクについて示していただきたい。	地質・地盤推定図を作成し、今後生じる可能性のあるリスクを考慮に入れた施工を行う。(資料4 P13) ※再掲
島委員	○施工困難な地質が出てきても、安易に新たな技術や考え方に走るのではなく、当初想定していた支保や補助工法の考え方を尊重すべき。	支保や補助工法について既存の考え方を尊重し今後も施工を行う。(資料4 P7、8、12)
近藤委員	○湧水量が多く発生している箇所、肌落ち・小崩落が発生している箇所が複数あるが、その箇所で補助工法が必要だったところと、補助工法無しで施工が進められているところがあるので、何故違いが生じたのか確認すると良い。 ○地質・地盤リスクマネジメントの考え方に従い、近くの情報をもとに踏まえたゾーニング図(仮称)を作成するなど不確実性、不均質性を考慮した地盤の捉え方を検討すべき。	補助工法の必要だったところと必要なかったところの切羽状況等について確認する。(参考資料⑦ P20、21) 地質・地盤推定図を作成し、今後生じる可能性のあるリスクを考慮に入れた施工を行う。(資料4 P13) ※再掲